

令和7年度
10月号

柳 崎 小 だ よ り

令和7年 10月1日

学校 HP
QRコード



学校教育目標 ～しなやかな心で、生き生きと学習し、元気に運動する子～
めざす児童像 <なかよくする子> <自ら考える子> <健康でがんばる子>
めざす学校像 ワクワクと優しさがあふれる柳崎小学校
児童在籍数 男子247名 女子232名 合計479名



「ヤマアラシのジレンマ」



校長 川端 浩司

「うちの子、友達少ないみたいで心配…」という保護者のみなさんからの声をよく聞きます。SNSやオンラインゲームでのかかわりをもつようになると、友達関係にも大きな影響を与え、トラブルの温床になることもあります。子供たちだけでなく、大人同士も表面的なつながりが増える一方で、深い信頼関係の構築が難しくなっています。

そこで、子供たちや私たち大人も一緒に「人間関係」について考えられるお話「ヤマアラシのジレンマ」を紹介します。お話の内容は、「真冬の寒さの中、2匹のヤマアラシが暖め合おうと近づく。しかし、近づきすぎるとお互いの体の針が相手に刺さってしまう。かといって離れると寒くなる。2匹は近づいたり離れたりを繰り返し、苦勞してお互いに傷つかず、寒くもない距離を見つける」という適切な人間関係をどう保ったらよいかを考えられるというお話です。



学校は、知識や技能だけでなく、様々な性格や能力をもつ集まりの中で、成功や失敗の実体験を通して社会性や人間関係を学ぶところだったのですが、最近は状況が変化してきたという指摘もあります。近づく前に『これ以上近づいたら、お互いのトゲで痛いかもしれない』『これ以上離れたら、お互い寒いだろう』と、頭の中で想像して悩み、考えることは大切なことです。今、人間関係において、「相手を傷つけない、自分はもっと傷つきたくない」という思いが強くなってきていると言われています。必要以上に相手の気持ちを押し量り過ぎて、また、自分が傷つくことを恐れ過ぎて、自分が出せず疲れている子が増えているかもしれません。反対に、自己主張ばかりして、トラブルになってしまう子もいます。昔もこのような子はいたのですが、解決が難しくなっている点が今とは違います。原因の一つは「対話力」の低下だと考えます。お互いの気持ちを話し合って、理解しようとする過程を経ずに、お互いの想像の中だけで思考が進んでいくことで、解決から遠ざかることが多くあります。

人間関係の土台が築かれる小学校生活、成長とともに変化していく子供たちの友達関係を私たち大人がしっかり見守っていかなければなりません。表面的には仲良く見えても、実は我慢していたり、孤立感を抱えていたりすることもあります。特に高学年では、SNSやオンラインゲーム内でのやりとりが関係性に影響します。厄介なのは保護者の目が届きにくいことです。



私たち大人ができるのは、「ちょうど良い距離」を見つけるための経験や体験、試行錯誤を応援すること。「話してくれない＝問題がない」ではなく、安心して話せる場づくりをすること。ヤマアラシのように、子供たちが自分にとって心地よい距離感を見つけられるよう、学校と家庭が一緒に考え、見守っていきましょう。